

2021年度活動報告「山友会白書」



目次

p4	代表挨拶
p5	理事長挨拶
p6	特集： ポスト・コロナ時代を 見据えた活動の方向性を 考えるために ー第1期中期事業戦略の評価ー
p10	活動報告1： クリニック
p12	活動報告2： 相談室
p14	活動報告3： 炊き出し・アウトリーチ
p16	活動報告4： 食堂

p18	活動報告5： 山友荘
p20	活動報告6： 居場所・生きがいをづくり プロジェクト
p22	活動報告7： 山谷・アート・プロジェクト
p24	活動報告8： 共同墓地の運営
p26	活動報告9： 社会的包括を推進するための 普及・啓発事業
p28	会計報告
p30	ご支援について

山友会白書 2021

2022年6月発行

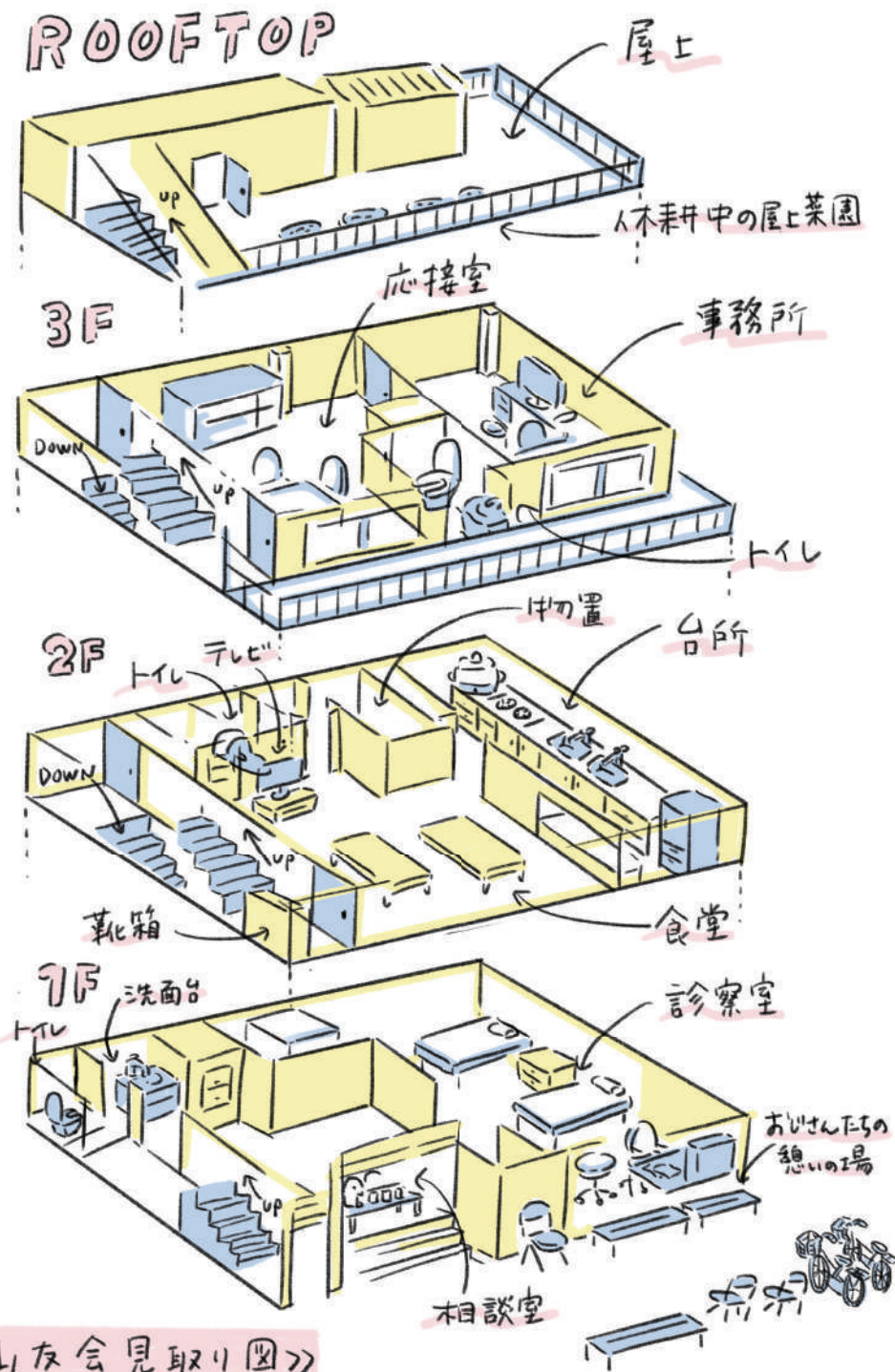
発行者：特定非営利活動法人 山友会

企画・編集：山友会白書2021制作委員会

デザイン・イラスト：進士 遼

協力：ボランティアの皆さま、関係者の皆さま

Special Thanks: 山友会の仲間たち



代表挨拶

ルボ・ジャン

人との出会いに偶然などないのではないかと思います。きっと、縁があったからこそ、誰かと出会い、再会できるのではないのでしょうか。50年ほど前、私がまだ20代で日本に来たばかりのころ（山友会ができるずっと前です）、日本語学校の先生と、一緒に勉強していた仲間たちで伊豆半島の神津島へ出かけたことがありました。神津島で毎年5月に催される「ジュリア祭」という祭りに参加する予定でした。旅行初日の午後、私たちは神津島の中心にある山に登りました。山頂に着いたので、記念撮影をしようとする、同じく登山をしていたふたりの男性が「写真撮りましょうか?」と声をかけてくれたのです。その後、ふたりとは別々に下山しました。

同じ日の夜、公園で町の人たちが阿波踊りを踊っていました。雑踏の中で、昼間に山頂で出会ったふたりと偶然再会して、私たちに阿波踊りを教えてくれました。翌日、ふたりは東京に帰る私たちを船着き場まで見送りに来てくれ、お互いの電話番号を交換しました。

東京に戻って数日後、男性のひとりから電話があり、浅草で会うことになりました。それから、彼とは友人としての付き合いが始まりました。彼は山谷にある玉姫公園のすぐそばで生まれたそうです。当時の私の住まいから遠いところでしたが、彼と会うときには浅草で待ち合わせをすることが多く、私は下町の風景をとても気に入



りました。日本語学校を卒業したら浅草の近くで何かできたらいいな、と夢見ていました。ある日、私が銀座のあたりを歩いていると、どこからか声がかかりました。見ると、タクシーの運転席からその友人が顔を出していました。彼はタクシーの運転手だったようです。私を助手席に乗せてくれたまま営業したので、その後に乗ってきたお客さんはさぞ驚いたことでしょう。途中でガソリンスタンドに寄ったのですが、そこは今でも山友会のすぐそばにあります。本当に深い縁を感じます。その後も彼とは浅草で待ち合わせは、三社祭や白髭祭、深川祭などで一緒にお神輿を担いだり、旅行に行ったりもしました。そして、今ではすっかり趣味となった麻雀も教えてくれたのでした。

山友会に来たおじさん達と私たちが会えることもまた、何かの強い縁があるのでしょう。コミュニティがあることで、再会できる。山友会はそのコミュニティのひとつであると思います。生きていても死んでもずっと一緒。その縁は、ずっと消えることはないと思っています。

(代表 ルボ・ジャン)

理事長挨拶

大脇 甲哉

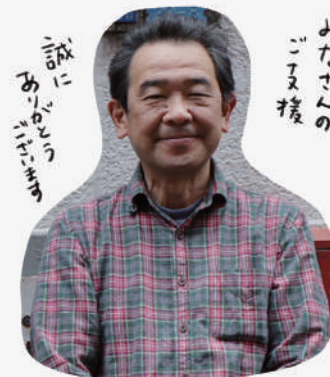
いつも山友会の活動をご支援くださり、誠にありがとうございます。皆さまに2021年度の活動報告をお届けいたします。

2021年度も前年度に引き続き新型コロナウイルスへの感染対策にかなりの力を割かなければなりませんでした。山谷地域にも感染はひろがり、ドヤや居住支援施設でも感染者が発生しました。山谷地域の居住支援の要であった日常生活支援住居施設（無料低額宿泊所）やドヤはそのほとんどが個室ではありますが、浴室やトイレなどの生活設備が共有であるために、集団感染のリスクを抱えています。また、山谷地域では医療・看護・介護などのサービスと居住支援・生活支援を行うNPOとが連携し、人々の暮らしを支えてきました。しかし、感染拡大下においては、その緊密な連携体制がゆえにそれぞれの抱える感染リスクも共有せざるをえず、山谷地域の従来の地域ケア体制は厳しい状況にありました。

山谷地域のビジネスホテルには外国人観光客はいまだ姿を見せず空室が目立つようですが、宿泊料金を下げて生活保護を受給した方を受け入れるところも出てきているようです。

山友会の活動はボランティアの参加人数制限を続けており、スタッフ中心で少人数の活動を行わざるを得ませんでした。

山友荘では発熱などで感染が疑われる入居者に対して感染防止のために個別対応を行うこ



とが何度もあり、2月には複数の入居者が感染し対応に追われました。また、山友会クリニック看護師を中心に、路上生活の方やドヤで暮らす方などのワクチン接種のコーディネートを行いました。さらに、社会とのつながりをほとんど持たない路上生活の方が感染し、近隣の医療機関などと連携し治療につなげたケースもありました。

隅田川河岸での炊き出しとアウトリーチは継続していますが、食堂はまだ再開の目途が立たない状況です。それでも、昨年度から始めた上野アウトリーチの取り組みによって、食を通してつながりを何とか保とうとしています。

感染対策に苦心しながら何とか活動を続けてきましたが、長年ボランティアとして山友会を支えてくれた「大切なおじさん達」に、感染拡大の影響で最期の「お見送り」や「偲ぶ会」もできなかったことはとても残念なことでした。

今後も感染拡大状況を注視しつつ、山谷の人々や社会から孤立し生活に困窮された方々への支援を継続していく所存です。皆さまの変わらぬご支援を賜りますよう、何卒宜しく願い申し上げます。

(理事長 大脇甲哉)

ポスト・コロナ時代を

見据えた活動の方向性を考えるために

－第1期中期事業戦略の評価－

長年の活動を経て活動を取り巻く環境が大きく変化したことを踏まえて、山友会では2017年度に2018～2020年度までの中期的な活動の方向性を「中期事業戦略」として取りまとめました。この中期事業戦略においては、「山谷地域を互いに助け合うことのできるような地域に変える」という方針のもと、

- ① 山谷地域の社会的に孤立した人々との多様な出会いの場を創出する。
- ② 山谷地域で暮らす人々が孤立せず安心して暮らすことができる。

- ③ 山谷地域で暮らす人々の社会的役割（生きがい）を創出する。

- ④ 山谷地域で無縁死を余儀なくされる人をなくす。

という中期的な活動の目標（中期事業目標）を設定しました。そして、従来から行っていた活動の意義を定義しなおし、活動ごとに中期事業目標の達成にむけたアクションや成果指標を取りまとめました。

① 山谷地域の社会的に孤立した人々との多様な出会いの場を創出する。

※ 達成できた成果指標

目標達成に向けたアクション	成果目標	結果
医療を通して出会いの機会を創出	2020年の段階で年間新患者数100人	67名
食を通して出会いの機会を創出	2020年の段階で年間食事提供数13,000食	2020年4月より食堂休止のため評価できず ※参考：2019年度年間食事提供数16,496食
写真を通して出会いの機会を創出	撮影会を年2回開催	1回（2020年度）
	写真鑑賞ワークショップ（ミーティング）を月1回開催	3回（2020年度）
	2020年までに写真展を1回開催	2018年11月上野ステーションギャラリーにて「山谷の文化的時間」開催
地域の人々とのつながりを創出	まちづくりについてのワークショップを開催（1回）	新型コロナウイルス感染拡大の影響で開催できず
山谷地域の簡易宿泊所宿泊者へのアウトリーチ実施	隔週でアウトリーチを実施する	社会的きずなづくり支援事業により実施 ※参考：2020年度 定期訪問件数228件（月平均19件）

② 山谷地域で暮らす人々が孤立せずに安心して暮らすことができる。

目標達成に向けたアクション	成果目標	結果
地域生活サポート対象者への月1回以上の訪問	地域生活サポート対象者のうち、元路上生活者の地域生活継続年数1年以上の者の割合が90%以上（2020年の段階で評価）	79%（2020年度末時集計）
見守りサポーター20人確保	見守りサポーター20人確保	6人（2020年度末時）
必要な医療につなぐ	2020年の段階で年間紹介状発行件数70件	37件（2020年度）
	支援対象者のうち、困った時に相談できる人や場所が周りにある者の割合が90%以上	81%
地域生活サポート対象者の望まない頻回転院と施設入所を0にする	地域生活サポート対象者のうち、地域生活継続の希望に90%以上応えている（2020年の段階で評価）	95%（2020年度末時集計）

③ 山谷地域で暮らす人々の社会的役割（生きがい）を創出する。

目標達成に向けたアクション	成果目標	結果
支援対象者にボランティア参加を促す	2020年の段階で支援対象者から見守りサポーターへ10人参加	6人（2020年度末時）
	2020年の段階で支援対象者から新たに食堂のボランティアへ10人参加	9人（2020年度末時）
	2020年の段階で新たに居場所・生きがいづくりプロジェクトのメンバーとして10人参加	11名（2018年4月～2020年3月）

④ 山谷地域で無縁死を余儀なくされる人をなくす。

目標達成に向けたアクション	成果目標	結果
看取りに応える体制づくり ・訪問診療医療機関の連携先を2機関増やす ・訪問看護事業所の連携先を1事業所増やす	山友荘入居者のうち、看取りの希望に100%応える	62.5% ※期間中に他界した利用者8名のうち施設内看取りを行った入居者数5名 訪問診療医療機関連携先が4機関増加 訪問看護事業所連携先が2事業所増加 待機当番制を導入（2019年6月～）
緊急時対応体制の整備 ・夜間や土日祝日の生活支援スタッフの配置を1名追加、もしくは緊急時に対応するオンコール体制の整備		人員体制整わず実施できず
最期まで暮らしたいと思える関係づくり ・食堂兼談話室のリビング機能強化		
地域生活サポート対象者、山友荘入居者のうち無縁仏になってしまう人を0にする	山友会の共同墓地を維持していること	共同墓地を維持 ※参考：2020年度末時 納骨者数28名



▲クリニックでの消毒の様子

2018～2020年度の中期事業戦略の実施期間を終えた2021年度には、その達成状況の評価を行った結果、戦略策定時に定めた21の成果指標のうち7つの成果目標が達成されたことがわかりました。中期事業方針に掲げた「山谷地域を互いに助け合うことのできるような地域に変える」ために、どれだけの成果目標を達成できたのかも大切なことではありますが、達成できなかった項目についても中期的な目標に対してどれだけ近づけたのかということや、達成に至らなかった背景や課題などは、今後の活動の方向性や戦略を考えていく上では重要な検討材料となります。

成果目標の2/3が達成に至らなかったことには、戦略策定時には想定されていなかった新型コロナウイルスという新興感染症の出現が大きく影響しています。新型コロナウイルスの存在は、山友会の活動の前提となっていた多くの人が集まることを難しくさせました。

感染拡大以前には、食堂で昼食を提供していたことで、路上生活の方や山谷地域のドヤで暮らす方などの多くの人達が山友会を訪れていましたが、人が密集することが避けられない食堂は感染防止を優先して考え休止し、



▲水曜アウトリーチの様子

居場所・生きがいづくりプロジェクトや山谷・アート・プロジェクトも活動を縮小せざるをえませんでした。それに伴って、ドヤやアパートで暮らす方の見守りが山友会に来所してもらうことで多くの方々に行えていた安否確認や困りごと・悩み事の把握を、訪問を中心とした方法に移していくことを迫られました。

また、中期事業戦略を実施していく上で必要となるスタッフやボランティアなどのマンパワーを十分に確保できなかったことも影響しています。さらに、新型コロナウイルス感染拡大以降には、感染防止のためにボランティアの参加人数を制限したため、人手不足に拍車がかかり、通常の活動に必要な人員の確保にも悩まされました。とくに、地域生活サポートにおけるアパートやドヤに暮らす方の見守りや生活支援にはボランティアの方々に多くご協力いただいていたことから、相談室や山友会クリニックのスタッフを中心に少ない人手で行っていかなければならず、体調不良や悩みごと・困りごとを早い段階で気が付いて予防的に介入することが十分に行えなかったようなケースが続きました。

このように、感染拡大以降は新たに生活に



▲炊き出しの様子

困窮された方やそれ以前から関わりのあった方たちの命や暮らしを守ることに支援の現場は忙殺され、支援を通して築かれたつながりを深めたり、関わりのある方同士のつながりを育んだり、互いに助け合うきっかけを探っていくことまで手を伸ばすことが難しい状況に追い込まれ、戦略策定時に描いていた未来予想図はより遠のいていきました。

そして、中期的な計画に対しての進捗管理体制が確立できていなかったなど、中期事業戦略を実現しうる組織体制が不十分であったことも大きな課題です。

このように、中期事業戦略のもと活動を行ってきた3年間で得られた成果や課題、2017年度に戦略を策定した時からの活動対象者や山谷地域の状況など活動環境の変化を踏まえて、2022年度にはそれ以降の中期的な活動の方向性を検討し「第二次中期事業戦略」を策定することを予定しています。

新型コロナウイルスの感染拡大状況は収束の兆しは見せませんが、コロナ禍と呼ばれる感染拡大に伴うさまざまな困難の中で、社会



▲お弁当を準備するおじさん

が新しい日常を模索してきたように、私たちも感染拡大を防ぎつつ活動を継続するための知識と経験を蓄積してきました。

「第二次中期事業戦略」という中期的な将来への海図は、山友会の活動が感染拡大下においても安定して活動を続けることで従来からのニーズに応えつつ、活動の対象者や活動地域のポスト・コロナ時代の新たなニーズにも応えうる活動に発展していくためのものです。この2022年度はこれから迎える3年間の中期的な目標を設定し、それを実現するための計画づくりとその実施体制を整えていくなどの「未来への投資」を行う一年とできればと考えています。

(副代表 油井和徳)

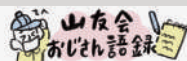


活動報告

1. クリニック

ボランティアの医療スタッフが、主に路上生活者など健康保険証を持たない方に対して、無料診療を行っています。専門的な治療が必要な場合は、治療を受ける上で必要な公的支援制度の利用ができるよう相談室と連携しています。

▼ 2021 年度 山友会クリニック 活動実績



「新種の株だって、何だったっけ……? そうだ、オロナミン株!」
周りのおじさん達「オミクロンでしょ! オロナミンなら皆、元気になるよ!」

1 年を振り返って

新型コロナウイルス感染収束の兆しはいまだ見えず、山友会クリニックでは、感染予防に努めながらの活動が続いていますが、ボランティア医師・看護師にご協力いただき活動を継続できました。

新型コロナウイルスのワクチン接種が開始されると、接種券を受け取ったドヤで暮らす方などから「予約がとれない」などの相談が増えました。接種が始まった当初はコールセンターに電話が繋がらず、インターネットを使えない方には予約を代行しました。また、路上生活の方や住民票がない方からは「接種券が届かないが、ワクチンを打てるのか」との不安の声があり、接種券申請の補助や、路上生活の方向けの集団接種の実施に向けた行政とのやりとりを重ねました。

こうしたワクチン接種の支援を約 70 名の方々に、そのほとんどの方々がスムーズに接種を受けることができています。ワクチン接種の支援のように、普段はクリニックを受診されない方でも、健康上の不安や困りごとを気軽に相談できる場所であることも必要なことです。

また、これまでも地域の様々な関係機関と連携し活動を行ってきましたが、今年度は無料低額診療事業を行う診療所と連携する機会が増えました。無料低額診療事業とは、生活困窮者が無料または低額の料金で治療を受けられる仕組みです。腕の骨折の疑いがあった患者さんはレントゲン撮影や骨折した箇所を固定



する処置を行う必要がありましたが、仕事をされていたものの健康保険に加入しておらず、生活保護制度の利用を拒んでおられたため、無料低額診療事業を行う診療所につないだことで、適切な治療を受けることができました。

これまで、健康保険に加入されていない方で専門的な検査や治療が必要な場合には、救急搬送や生活保護制度の利用をご提案することが多くありました。しかし、過去に生活保護制度を利用した際に辛い思いをされていたことで利用を拒まれる方や、日雇いなどで不安定ながらも仕事で得た収入で暮らしていきたいと考えている方で、病状が深刻な場合には対応に悩むことがありました。さまざまな困難を抱えた方のご希望に少しでも寄り添うためには、一時的にでも柔軟な対応ができる無料低額診療事業の存在は重要です。

社会情勢の変化とともに生活に困窮される方の抱える課題や生活背景の多様化が進んでいます。クリニックを訪れる方々の悩みや希望に寄り添い、一緒に考え続けることを大切にしていきたいと思っています。

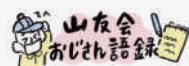
(クリニック看護師 天方)



2.相談室

生活上の問題や健康上の問題に対しての相談支援、ホームレス状態にあった方が、アパートやドヤ（簡易宿所）等での地域生活に移られた後の地域生活サポート（見守り、関係機関との連絡調整、緊急時対応 等）を行っています。来所される方々に対してお茶や日用品も提供しており、山友会を訪れる人々にとっての憩いの場にもなっています。

▼ 2021 年度 相談室活動実績



山友会の利用者 A さん「今日は何日だ？」 - 10 日です。
A さん「なんでだ？」 - 何か用事でもあるんですか？
A さん「教えない。7 日じゃないのか？」 - 違います。
A さん「なんでだ？」 - ……………。

1 年を振り返って

相談室では、路上生活を経験した方などでアパートやドヤで暮らしている方の見守りを行う「地域生活サポート」という取り組みを行っており、安否確認や通院同行などを行っていますが、最近では特に介護保険サービスの利用を支援することや、訪問診療を行う医療機関と連携することが増えてきています。

山谷地域で暮らす人々の高齢化によって日常生活を送ることが難しくなる方が増えてきており、そうした方々の生活全般を支えることが急務になっています。地域包括支援センターや地域の介護事業所などと連携をとりながら、どのようなケアが必要なのかなどをご本人と相談しています。

路上生活をされていた頃に病院に入院し、退院してからドヤで暮らしている 60 代の O さんは、体調がすぐれないときには、不安で相談室に 1 日に何回も訪れます。また、病院への通院も医師からの説明がうまく理解できないようで、スタッフが同行していました。

介護サービスの利用を提案したところ、デイサービスでの入浴を希望されました。地域包括支援センターに相談するなどして、デイサービスの初日を迎えました。そして、デイサービスから帰ってくるなり、笑顔で「よかったよ」と話してくれました。それから、この方の生活が少し変わっていきました。デイサービスから帰ってくると、使ったタオルなどを自分で洗濯して、次の準備を行っています。さらに、



病院への受診も訪問診療に変更して健康状態を相談しやすくなったことで、少しずつ活力を取り戻しているように見えます。

アパートで暮らす 70 代の I さんは、肺疾患を患い、歩くのも辛そうな様子でした。認知機能も低下してきているようで、外出したまま何日かアパートに帰らず、警察に保護されたこともありました。今までは続けていた通院も「診てもらっても仕方ない」と言って、受診を拒んでしまうようにもなりました。ご本人と相談をして訪問診療が開始され、地域包括支援センターにも相談し見守りを行ってくれています。

このように、高齢や病気に伴って日常生活の支援が必要となる事例が、地域生活サポートの対象者の方々の中で増えてきています。孤独死に至ってしまうことが少なくなるためにも、山谷地域で暮らしてきた方たちが孤立せず安心して暮らし続けられるためにも、地域の医療サービス、介護サービスなどとも連携し、一人ひとりに丁寧な見守りを続けていきたいと思っています。

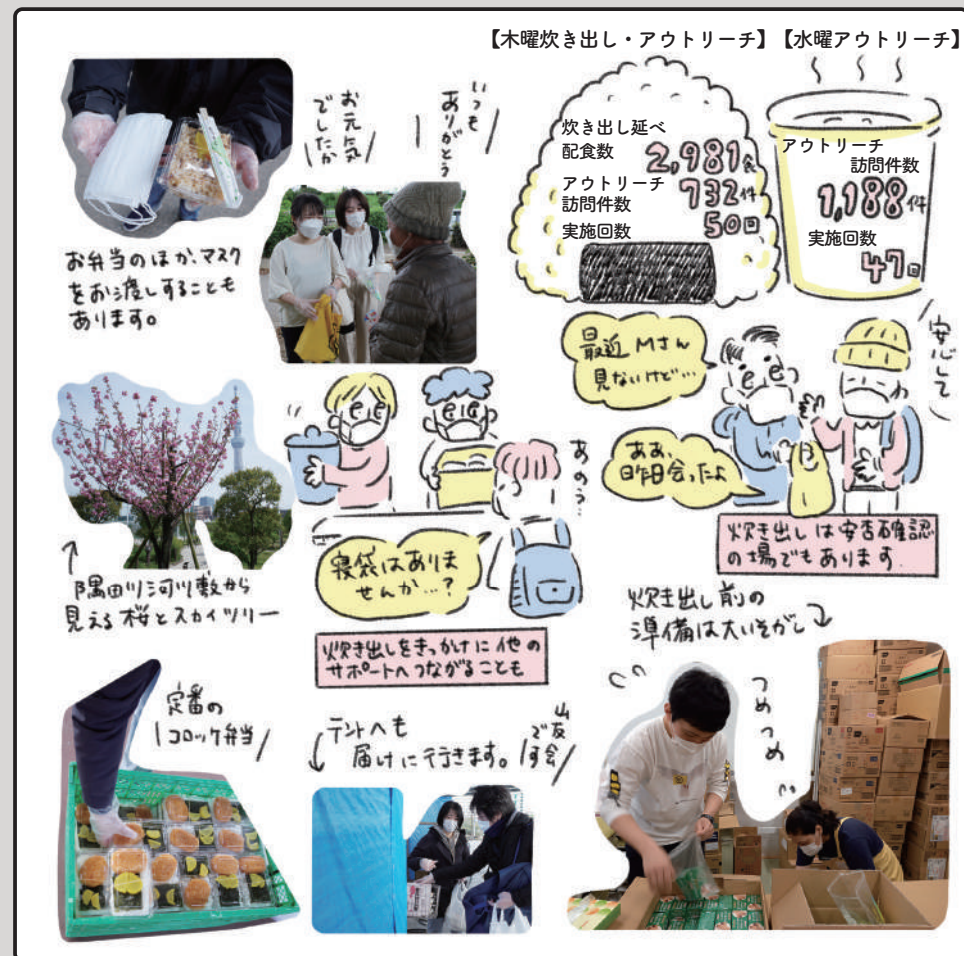
（相談室 菌部）



3.炊き出し・アウトリーチ

山友会では隅田川河川敷で、毎週水曜日にテント生活の方々を訪問するアウトリーチを行い、木曜日には炊き出しとアウトリーチを行っています。多くのボランティアの方々とともに、食事の提供だけでなく生活相談や健康状態の確認なども行っています。

▼ 2021 年度 炊き出し・アウトリーチ 活動実績



ワクチンを打つことになったスタッフに「明日、オミクロン打つの？」
ー オミクロンは打たないですね！

1 年を振り返って

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、今までの生活が一変して生活に困窮する状況に直面し、困惑されている方が増えています。家、仕事を持ち、いわゆる「普通の」社会生活を送っている時には気付かず、それらを失った状態に置かれた時にはじめて気付くことはたくさんあります。

ある日の炊き出しを終えて、並んでいた方達がいなくなり、我々も引き上げようとしていた頃に、炊き出しに並んでいた 30 代のある男性から「寝袋はありますか？」と話しかけられました。一見すると身綺麗にされており、生活に困っている様子には見えないのですが、お話を伺ってみると、数日前から路上生活をされているようで、なるべく他人の目に触れたくないとの心情がうかがえました。おそらく、そのような気持ちもあり、どこかへ相談することができずにいたのではないかと思います。その方は、食事以外の悩みもいくつか話してくれました。それ以来、山友会に来てくれるようになり、さまざまなサポートへとつながっています。

炊き出しでお腹が満たされて気持ちが少し落ち着いたという 50 代の男性の方は、身体の不調と金銭トラブルがあることを話してくれました。だんだんと身体が思うように動かさなくなっているけれど、保険証もなく収入も少ないので通院できずにいることや、働く意欲はあるものの思うように仕事が見つから



ないことなどで、一向に好転しない八方ふさがりの状況に陥ってしまい、もう人生をあきらめかけてしまっているとのことでした。それをきっかけにして、これからのことを一緒に考えるようになり、現在は生活保護制度を利用して医療機関へ通院できるようになるなど、生活を立て直し体調も整えている最中です。

炊き出しは空腹が満たされることもあります。こうした方々の悩みに触れる機会になったり、顔見知りのおじさんの安否を尋ねることもできたりします。炊き出しに並ばれている方々にとっても、他の方と会話することで不安感や孤独感が和らいだり、並ばれている方同士の情報交換になったりと、さまざまな意味を持ち合わせている大事な場所や機会となっています。

炊き出しに並ばれている方それぞれに多様な事情があり、必ずしも皆さんと関係が深められるわけではありませんが、皆さまからご寄付いただいた食品などを必要としている方のもとに届けるためにも、これからも活動を続けていきます。

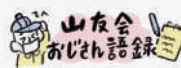
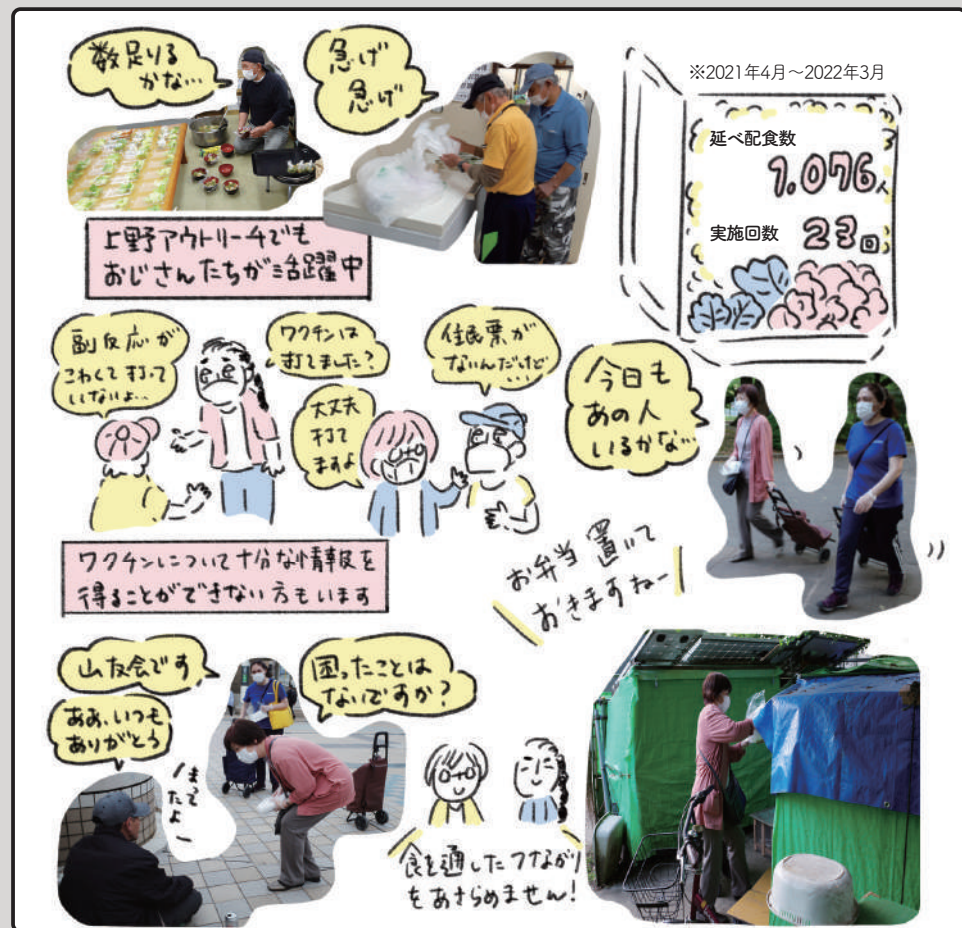
(炊き出し・アウトリーチ 金内)



4.食堂

クリニックの患者さんや相談室の相談者の方など、山友会を訪れた人々に無償で昼食の提供を行っています。一緒に食卓を囲うことで関係づくりのきっかけにもなっており、「心もお腹もいっぱいになる」食堂を目指しています。※2022年6月現在、昼食の提供は休止しています

▼2021年度 上野アウトリーチ 活動実績



「そういえば、あの元気かな」
「出家するといっけ居なくなったんだっけ」
「ほんとはどうかわからないよ。本人はそう言ってるけど」

1年を振り返って

昨年国内での新型コロナウイルス感染拡大は収束の兆しを見せず、食堂で以前のように路上生活の方や山谷地域のドヤなどで暮らす方に昼食を提供することはできませんでした。それでも、食を通してつながりをつくる取り組みをあきらめず、2020年度から月2回、上野駅周辺にいる路上生活の方などにお弁当をお渡ししながら声をかけていく「上野アウトリーチ」の活動を続けています。

上野アウトリーチで声をかけている方の中には、アウトリーチの日を覚えていて私たちを待っていてくださる方もいます。皆さんはお弁当を「ありがとう」と笑顔で受け取ってくださいます。そして、彼らのためにこの取り組みを続けられることに私は感謝をしています。パンデミックの影響は深刻で、不安定ながらも生活の糧であったアルバイトなどの仕事を失い、日々の生活費にも事欠くようになり、ついにはホームレス状態となった方を多く見かけました。

私たちが感染症から身を守るためには、手洗いや消毒、マスクの着用などの個人でできる感染予防対策のほか、ワクチン接種が有効であることが知られるようになりました。しかし、新型コロナウイルスの予防接種システムは、路上生活の方すべてに届いているわけではありません。

路上生活の方と話していると、一部の人はワクチンの副反応を心配されていました。しか

し、残念なことに副反応がどのようなものかということや、どのような備えをすればよいのかなどについて、十分な情報を得ることができない方が多くいます。なかには、ワクチンを接種したら死んでしまうと考えている方もいました。ほかにも「あのワクチンは日本人のためではなく、西洋人のために作られたものだ」という方もいました。路上生活をされている方のように、さまざまな事情で住民登録のない方にも、ワクチンがどのようなものかということだけでなく、どうしたら接種することができるのかなどの情報が届き、その仕組みが整えられてほしいと思います。

以前のように、山友会を訪れた方たちに食堂で毎日昼食を食べてもらえるようになるためには、一人ひとりの安全が確保され、健康面の不安がないようにする必要があります。新型コロナウイルスの脅威からすべての人の安全が確保され、食堂を再開できることを願っています。

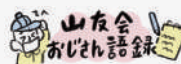
(食堂 ファビオラ)



5.山友荘

山友荘は、元ホームレスの方などで、介護が必要であったり、病気や障害のため一人で暮らすことが難しくなった方のための住まいを提供しています。スタッフが常駐し、生活の見守りや支援を行うほか、食事の提供、医療機関・介護事業所などの連絡調整を行うことで、入所されている方々の暮らしを支えています。

▼ 2021 年度 山友荘 活動実績



「いま菜園でトマト、パズル、きゅうりを作ってるよ」
 - イタリアンでも作れるの? 美味しそう!
 「それが、おじさん達はパズルを始めても『何に使うんだ』って言ってもらってこないんだよ」

1 年を振り返って

新型コロナウイルスが国内で確認されてから、はや2年が経ちました。国内で感染拡大が確認された頃から、山友荘では、スタッフの健康管理やマスク着用と手指消毒の徹底のほか、入居者の方々にも外出時のマスクや手指消毒の呼びかけ、1日3回の検温と体調確認、施設内共用部分の定期消毒などの感染対策を行ってきました。

しかし、2022年2月にはとうとう山友荘でも入居者のなかで感染者が発生してしまいました。1人目の感染者は、2月末に発熱。すぐに抗原検査を行い、陽性を確認しました。幸い翌日には入院することができ、ほととしいたのも束の間、その後2人目、3人目と立て続けに感染者が出てしまいました。

最初の感染者を確認して以降、施設内での感染拡大状況が収束するまでの間、感染拡大防止を最優先とし様々な対策を行いました。食堂に集まって食事することから、各自の居室での食事に変更。さらに、施設外へ感染を拡大させるのを防ぐため、感染者以外の入居者の方々の介護サービスを一時中断しました。ヘルパーさんたちの訪問がなくなったほか、デイスサービスへの通所や近所へのお出かけも控えていただくことをお願いしてきました。この間、訪問されているヘルパーさんの代わりに山友荘スタッフが身体的なケアや買い物などを代行していましたが、普段とは異なり制限のある生活となったことで、入居者の方々も



ストレスが溜まってしまっているようでした。そして、3月上旬に3人目の感染者の方が入院した後、入居者とスタッフ全員のPCR検査陰性を確認したことで、感染拡大は収束したと判断しました。再び同じような事態が起きないことを祈るばかりですが、これだけの感染力を持つウイルスにいつ誰が感染してもおかしくない状況の中では、日常の感染対策を徹底しつつ、感染者が発生しても支援が継続できる体制を整えていく必要があります。

そして残念ながら、感染したことでお亡くなりになった入居者の方もいました。3月初めに感染したMさんは、高齢であり基礎疾患もあったことから、感染からほどなくして容体が悪化し、入院して約2週間後に他界されました。スタッフだけでなく、訪問されたヘルパーさんや看護師さん、訪問診療の先生方にも気遣いの言葉をかけてくださっていたMさん。乱暴な言い方をするとときもあったけれど、それもMさんのキャラクターとしてみんなに愛されていたように思います。心からご冥福をお祈りします。山友荘 石井



6.居場所・生きがいづくりプロジェクト

ホームレス状態にある方や地域で暮らす元ホームレスの方などが、地域の中で孤立せずに自分の存在を認められる居場所と、自身の生きがいとなるような社会的な役割を手にすることを目的に、そうした方々が主体的かつ持続的に参加できる居場所づくりや生きがいづくりをサポートしています。

▼ 2021 年度 居場所・生きがいつくりプロジェクト 活動実績



1 年を振り返って

2021年度の居場所・生きがいがづくりプロジェクトでは、毎月1回の生きがいがづくりミーティングでメンバーのおじさん達とさまざまな情報を共有しています。今年度は、メンバー同士でアイデア出しをして、2回のレクリエーションを開催することができました。ひとつ目は、年末のお楽しみ会。ふたつ目はお花見散歩でした。

ミーティングで挙がった話題を通してこの1年を振り返ってみたいと思います。

4月、「出かけること」についてみんなで真剣に話し合いました。感染者が増える時期の外出先での飲食について、消毒やマスクをしないリスク、ワクチンに対する考え方など、生活に深く関係することやそれぞれの思いを共有しました。

5月、ミーティングの場として利用している食堂の畳敷きに関して、畳は汚れが目立つという意見が出ました。どんな素材ならば汚れても掃

除が簡単で、長く快適に利用できるかといったことに関心が高まり、共有の場として大切にしたいという思いがうかがえました。また、人形作りについて再開希望の声があがり、感染対策をしつつ、短時間かつ2～3名の少人数で再開することになりました。

7月、浅草の街の変化に興味が持たれ、活発に情報交換が行われていました。延期になった遠足についてメンバーの関心が高く、いつにするかといった積極的な意見がありました。また、最近来所していない、連絡が取れないメンバーについて心配する様子も見られました。

8月、人形作りの担当メンバーから、来客（大学の実習生の方々）を予定しているので、それに備えて人形を作りたいと希望があり、交流に対する意欲がうかがえました。

この月、亡くなった仲間があり、ゆっくりと悼む時間を過ごしていました。

10月、参加者には、まだ安心はできないものの、コロナの感染状況が落ち着いてきたという認識がありました。12月のミーティングで催し物としてトランプや腕相撲などをやりたいという意見があり、ようやくこういった話ができるようになったと喜んでいた様子。ただ、腕相撲を発案したものの、コロナが怖いのでやっぱりやめようという流れに。感染状況が落ち着いてきて多少の安堵感を覚えるメンバーが多い一方で、今後に対する不安が残る参加者もいるということを共有できました。

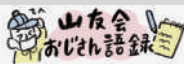
12月、この年最後のミーティングで、レクリエーションを行いました。生きがいきづくり活動で人形作りを担当したメンバーからは手作りの人形がプレゼントされ、みんなで感想を言い合いました。ビンゴ大会を発案したメンバーに、会場の飾りつけ、賞品の選定、ゲームの仕組みとルールなどを決めていただきました。

当日は、特定の活動に参加していないメンバー2名が進行を行いました。ルールが分からないメンバーにも丁寧に説明をするなど、全員が楽しめるように気遣いがなされているようでした。

1月、新年なので、抱負を語っていただきました。参加しなくなったメンバーについても、近況報告が行われました。また、来所者への人形の手渡しなど、自発的に活動が継続されていました。

3月、第2回のお花見散歩を行いました。事前のミーティングでは、行先や道順を楽しく計画していました。当日、おじさん達がお誘いたいボランティアなど関係者の方々にお声がけして、15名のグループで散歩に出かけました。携帯電話で写真を撮るのが初めてというメンバーには、ボランティアさんが優しく教えてくださっていました。道中、色々な人とおしゃべりしながらお散歩をする中で、ゆっくりと交流を深めることができた様子でした。また、足が痛くて散歩をするのが難しいメンバーの方のために、お花見に行った先のお店でお土産を買うことができました。

(居場所・生きがいづくりプロジェクト 伊藤)



「外に出かけたいね。遠くに行って、写真を撮りたい。

風景、廃線になったトンネルとかが好きだね」

活動報告 ..

7. 山谷・アート・プロジェクト

「通るよー、山谷の路地一直線！」 TOKIO



2021年写真大賞

「相談室の昼休み。何食べようかなー？」 HIROYOSHI



山友会賞

「住み慣れた僕の部屋！」 MISAO



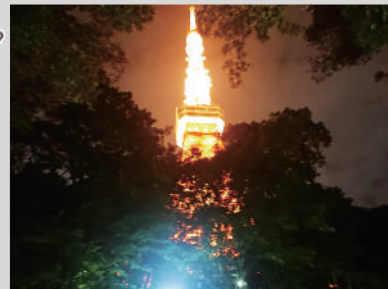
カメラマン賞

「よく撮れたかな？」 JIRO

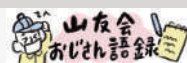


敢闘賞

「燃える東京タワー！」 KOJI



激励賞



(髪が薄くなってきたという話で)「大丈夫。ハゲてるのは男の勲章だよ」

「僕、隅田川テラスのテントでおじさんと暮らしています！」 MASAHARU



ルポ・ジャン賞

「さて、誰でしょう？ 芸術的写真！」 TERUO



審査員賞

「僕の家の訪問者！ 看護師さん、いつもありがとう！」 DAIMON



優秀賞

「山友会前、いつもの風景」 HIDEAKI



コスモス賞

1 年を振り返って ..

2021 年度、最も大きな出来事は、2 人の新メンバーが加わったことと、「2021 年フォトコンテスト」を開催したことです。審査をしてくださったのは訪問看護事業所、関係のあったマスメディアの方、アート関係者の方々。一般投票では多くの方々に投票していただきました。投票方法はオンラインと、山友会 1 階の展示場での直接投票です。また、SNS やサイトを見た多くの方から激励や感想のメッセージを送っていただきました。

授賞式で表彰状と額に入った受賞作品、そして記念品などを受け取ったメンバー達の姿はとても誇らしげでした。

「また来年も賞をもらえるように、がんばって撮影します！」

大賞を受賞した Tokio さんの言葉です。

(山谷・アート・プロジェクト 後藤 高木)



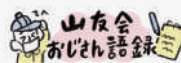
写真部のメンバーが撮影した写真は、フォトコンテストの特設サイトでご覧いただけます。



9.社会的包括を推進するための 普及・啓発事業

従来から行ってきた広報活動を本格的に行うために、2020 年度末に「社会的包摂を推進するための普及・啓発事業」を活動の中に位置付けました。山谷地域が抱えてきたホームレス問題、貧困問題をはじめとする社会的孤立に伴う問題への社会的関心を高め、問題解決に向けた市民参加を促進することを目的に、さまざまな情報発信を行っています。

日付	講演・メディア掲載
2021 年 4 月 6 日	毎日新聞 山谷「我が街」写真で語る 日雇い労働者参加アート・プロジェクト
5 月 7 日	東京都立大学 プレミアムカレッジにて講義 「“ホームレス”を取り巻く状況」(副代表 油井)
5 月 14 日	日米サービスハブネットワーク ウェビナー Fighting Homelessness Through the Covid-19/Systemic Inequality Syndemic A Webinar Featuring Community Leaders
6 月 10 日	東洋大学社会貢献活動入門 2 にて講義 「NPO 法人山友会のホームレス支援の取り組み」(副代表 油井)
6 月 16 日	東海大学医学部看護学科にて講義 「社会の変化に伴う地域の健康問題と支援の実践—山谷地域の現状と山友会の取り組み—」 (副代表 油井・看護師長 天方)
7 月 2 日	代々木中学校にて講義 「ホームレスってどんな人?」(副代表 油井)
7 月 30 日	みんなの SDGs オンラインセミナーに登壇 「希望するすべての人にワクチンを:誰一人とり残さない SDGs 実現のために【日本人編】」 (副代表 油井)
8 月 20 日	プライマリヘルスケア研究所 勉強会にて報告 「ホームレス状態にある方への新型コロナウイルス感染症の影響」(副代表 油井)
9 月 30 日	The Japan Times Japan's growing 'underclass' creaks under weight of pandemic
10 月 20 日	毎日新聞 路上の命 守りたい
2022 年 1 月 14 日	令和 3 年度 日常生活支援住居施設管理者等資質向上研修にて講義 「各地の実践について」(副代表 油井)
1 月 29 日	NHK ノーナレ「THE LAST MILE ルポ・ジャン 最後の歩み」



—ふざけてばかりいないで—
「お前がさみしそうにしているから、楽しくしてやってんだ!」
— (ちょっと感動)

1 年を振り返って

2021 年度も、新聞やテレビなどのマスメディアからの取材依頼への対応のほか、さまざまなイベントや大学等の講義・授業にて、山谷地域やホームレス問題の現状や活動の報告を行ってきました。

また、2020 年度には、それまでのホームページやブログ、メールマガジン、Facebook 公式ページ、Twitter 公式アカウントでの情報発信に加えて、活動の様子を動画で、よりリアルにお伝えするために YouTube 公式チャンネルを開設しました。スタッフが活動の近況をインタビューでお届けする企画などが配信されていますので、ぜひご覧いただければ幸いです。

山友会 YouTube
公式チャンネル→



このほか公式ブログや SNS 公式アカウントでも活動の様子などをお届けしています。

山友会公式ブログ

<http://ameblo.jp/sanyukai1984/>

Facebook 公式アカウント

<https://www.facebook.com/sanyukai1984>

Twitter 公式アカウント

@sanyukai1984

また、活動をご支援いただいている方々などをお招きして毎年行っていた活動報告会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響で 2021 年度も開催を見送らざるをえませんでした。その代わりに、「映像で見る活動報告」と題して、スタッフのコメントとともに日々の活動の様子を撮影した映像をまとめて、YouTube 公式チャンネルにて公開しました。

2022 年度も活動を通して得られた知見やその関連情報を社会に発信し、より多くの方々に私たちの活動への共感を広げていきたいと思っています。ぜひご注目ください。
(副代表 油井)



▲山友会 YouTube

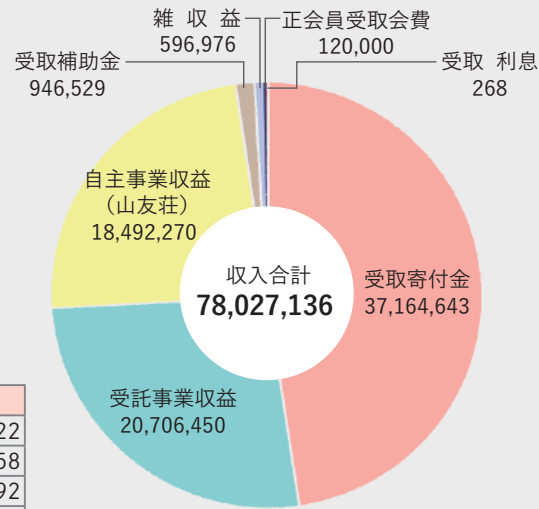


▲山友会ブログ

2021年度 会計報告

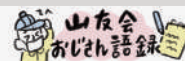
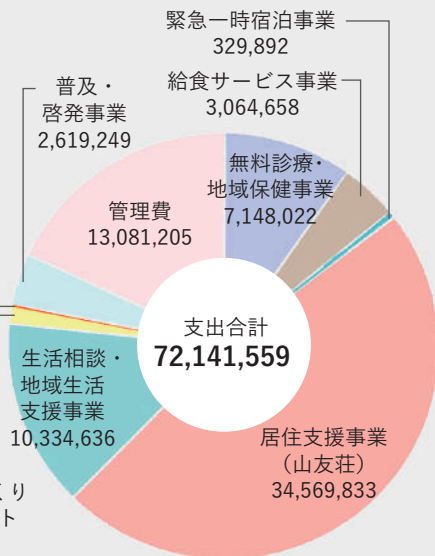
収入の部

項目	金額
受取寄付金	37,164,643
受託事業収益	20,706,450
自主事業収益（山友荘）	18,492,270
受取補助金	946,529
雑収益	596,976
正会員受取会費	120,000
受取利息	268
合計	78,027,136



支出の部

項目	金額
無料診療・地域保健事業	7,148,022
給食サービス事業	3,064,658
緊急一時宿泊事業	329,892
居住支援事業（山友荘）	34,569,833
生活相談・地域生活支援事業	10,334,636
居場所・生きがいがづくりプロジェクト	785,728
山谷・アート・プロジェクト	73,379
共同墓地の維持・管理	134,957
普及・啓発事業	2,619,249
管理費	13,081,205
合計	72,141,559



一具合悪いところない？
「悪いところつろうかな」一やめてー！

貸借対照表

特定非営利活動法人 山友会

〔税込〕(単位：円)

2022年3月31日現在

《資産の部》		《負債・正味財産の部》	
科目	金額	科目	金額
【流動資産】		【流動負債】	
(現金・預金)		未払金	1,424,035
現金	102,426	預り金	118,236
当座預金	58,965,749	源泉所得税	(58,236)
ゆうちょ銀行給与	(39,228,718)	住民税	(60,000)
ゆうちょ銀行寄付口座	(19,737,031)	流動負債合計	1,542,271
普通預金	66,988,264	負債合計	1,542,271
みずほ銀行	(9,488,985)		
ゆうちょ銀行	(47,499,100)		
三菱UFJ銀行	(10,000,179)	《正味財産の部》	
現金・預金計	126,056,439	前期繰越正味財産	136,619,788
(その他流動資産)		当期正味財産増減額	5,885,577
立替金	3,680	正味財産合計	142,505,365
その他流動資産計	3,680		
流動資産合計	126,060,119		
【固定資産】			
(有形固定資産)			
土地	9,536,629		
建物	6,895,582		
建物付属設備	5		
構築物	1,116,000		
車両運搬具	1		
什器備品	3		
工具器具備品	326,667		
有形固定資産計	17,874,887		
(投資その他の資産)			
差入保証金	12,630		
敷金	100,000		
投資その他の資産計	112,630		
固定資産合計	17,987,517		
資産合計	144,047,636	負債及び正味財産合計	144,047,636

監査報告書



「ご支援、いつもありがとうございます！」



事務局メンバー

ご支援について

ボランティアさんからのメッセージ

日雇い労働者の町であった山谷には、「山谷に来ればなんとかなる」との言葉にあるように多様な方々が集まってきました。山谷以外の場所で生きるのが難しい。言葉の裏にはそんな事情が垣間見えます。

山友会は、ホームレスという言葉ではなくて、ひとりひとりの人と出会うことができる貴重な場所です。相談室に来た方と話をするというだけの関わりですが、そのことが少しでも力になっていればいいなと思っています。

(相談室ボランティア 半田 諒志 様)



企業・団体からのご支援



Tシャツ 200 枚
社会福祉法人
はばたき福祉事業団様



不織布マスク 15,000 枚
株式会社滝研様



パルスオキシメーター 2 台、
PCR 検査キット 10 個ほか
日本ウッドブリッジ株式会社様

※衛生用品の募集状況につきましてはホームページ内「ご支援について」のページを更新しておりますので、ご寄付をご検討の方は、大変お手数ですがご一読いただけますと幸いです。

一般財団法人日本メイスン財団様より山友会クリニック薬品購入費用とシェルター宿泊費用のご支援、在日米商工会議所様より活動費用のご支援、東京アメリカンクラブ Women's Group 様より活動費用と物品のご支援、公益財団法人毎日新聞東京社会事業団様より活動費用のご支援をはじめ、多くの法人・団体と個人の方々よりご支援をいただきました。誠にありがとうございました。

ご支援のお願い

【マンスリーサポーターに参加する】(毎月の寄付)

クレジットカード決済・口座振替のいずれかをお選びいただけます。

お申込み方法などの詳細は山友会ホームページ

(<https://sanyukai.or.jp/monthlysupporter>) を

ご覧いただくか、山友会事務局までお問合せください。



【寄付をする】

ー ご寄付の方法

・郵便振替をご利用の場合

00100-2-158990 加入者名：山友会

※銀行振込をご希望の方は事務局までお問い合わせください。

・クレジットカードをご利用の場合

<https://sanyukai.or.jp/donation>

上記 URL より、クレジットカード決済システムを利用してご寄付ください。

※寄付金受領証明書は1月1日～12月31日までの1年間の合計寄付金額を記載し、翌年1月～2月ごろにお届けいたします。



【物品で支援する】

2022 年 6 月現在つぎのものを募集しております。

ー食 品・・・米(精米済)、アルファ米 ※賞味・消費期限内のもの

ー雑 貨・・・タオル、靴下

ーその他・・・お米券、未使用切手、書き損じはがき





はやく
こうなると
いいね...

NPO
山友会

特定非営利活動法人
SANYUKAI

特定非営利活動法人 山友会

〒111-0022 東京都台東区清川 2-32-8

TEL : 03-3874-1269 FAX: 03-3874-1332

MAIL : info@sanyukai.or.jp

WEB : <https://sanyukai.or.jp>